

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970100174
法人名	株式会社 シティー・プランナー
事業所名	フレンド ニヶ辻
所在地	奈良市ニヶ辻西町8-10 (電話)0742-51-7700

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成20年10月22日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 2 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	5.5

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	300,000 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1500 円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田北病院 棕棒医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

柿の古木のある中庭を囲むように居室を配した当ホームは、民家をそのまま利用しており、駅のすぐ隣にあって、近くには垂仁天皇陵や唐招提寺、薬師寺などがあり落ち着いた町並みに違和感無く溶け込んでいる。民家をあまり手を入れずに使用しているため、利用者には懐かしさを感じるホームであるが、職員には死角が多く、使い勝手も決して良いとは言えないが、工夫し合い優しく穏やかに利用者の支援に当たっている。法人は認知症高齢者、高齢者介護に豊富な経験や施設を有しており利用者や家族には安心できるグループホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では運営推進会議の参加者が少ないとの指摘があったが、その後管理者や職員の努力で行政、地域包括支援センター、自治会代表、家族が集まり、各人の立場から意見が述べられている。3回目の開催が予定されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	項目により運営者、管理者、職員の意見も取り上げ、自己評価票が作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所からは、ホームの紹介や運営状況、方針、活動内容などが報告され、行政からは情報の提供及び発信ができれば良いとの意見が出され、家族からは外部から風をいれてほしいとの希望が述べられている。自治会代表が参加されたことで、良い関係が構築されつつある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族来訪時には、必ず面談し、意見を聞いている。無記名の家族アンケートにも苦情の把握に努め、ケア会議などで対応を話しあっている。
重点項目④	散歩時の挨拶や、自治会に加入し行事に参加、ホームの行事に招待するなど地域住民との交流に努めている。

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	解りやすい言葉で独自の理念を作っている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲げ、ケア会議で話すなど共有している。利用者の尊厳を守り、安心して暮らせるケアを実践し、地域にも溶け込む努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、会員としてゴミ出しに参加したり、近所の方から野菜を頂く、散歩時の挨拶、地域のバザーに参加するなど交流がある。ホームの夏祭りや文化祭にも地域の方が来られ、積極的な交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	項目により運営者、管理者、職員の意見も取り上げて自己評価票を作成している。前回評価を基に改善に努力されている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域包括支援センター、地域代表、家族が一同に会することが難しいなかで、年3回の運営推進会議が行なわれ、現状報告や、方針、各立場での意見交換が行なわれている。10月中には次回開催予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状報告や指導を受けたり、生活保護の方を受け入れるなど連絡を取り合っている。中学生の体験学習を実施している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時には必ず面談し、心身の状況や暮らしぶりを伝えると共に、ホーム便りや一言通信で定期的に報告もされている。個人的な買い物に関しては、事業所で立替払いをし、法人本部から利用料と共に請求されている。面会の少ない家族には、電話や手紙で報告し、ケアカンファレンスも実施されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には積極的に意見を聞き、無記名の家族アンケートを実施して言い難いことも言えるように心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員は2年に1度位の異動があるが、非常勤職員はほとんど異動が無い。常時2人位は馴染みの職員であるように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部で新人研修、中段階研修、サブリーダー研修、リーダー研修が行なわれ、認知症介護実践研修、管理者研修、リーダー研修なども計画的に受けられている。		本部で受けた研修をケア会議で報告する形で、他の職員にフィードバックされているが、ホーム内に資料が残されていない。コピーを残すなど職員が何時でも見られる配慮を希望します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はグループホーム運営協議会を立ち上げ、情報交換、勉強会の場を設定している。		運営協議会の更なる活動と、職員間の活発な交流を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来てもらい、1週間程度の体験入所を実施している。相談書に基づき話し合いを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備、洗濯物の片付け、植物の種まき、水やり、手すり拭きなど一緒に行い、仏画や水墨画を描かれる方や教師をされていた方などもおられ、かるた、ことわざ、昔のこと、植物の育て方など教わることも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声かけをして本人の希望や意向の把握に努め、家族にも意見を聞きながら、その人らしい暮らし方を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日頃の様子や家族の意見を基にケア会議で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとにアセスメントし直し、一日スケジュールなどを参考に3ヶ月ごとに介護計画の見直しがされている。変化のある時は随時見直しもされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護予防や短期入居の利用を可能にしているが、空室が無く、受け入れ実績はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週医師の往診があり、歯科、精神科、眼科など必要に応じて家族に連絡し受診している。夜間受診も可能な体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについての対応指針はあるが、建物の構造や職員体制から当ホームでの対応は難しく、グループ内の他の施設を紹介している。適応者は今のところいない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個性や人格を尊重した言葉かけ、対応に気を付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし献立や外出、レクリエーションなど希望を聞きながら支援している。自室に居られる時は、部屋の外から見守りをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みや希望を配慮し、季節感や行事食も取り入れている。誕生日のお祝いや外食なども行なっている。食事の準備や食事、片付けも一緒に行なっている。鯖アレルギーの方には代わりを用意するなど配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則は隔日、3時のおやつの後からの入浴となっているが、体調や希望に添って支援されている。1名ずつの同性介助とし、脱衣室の扉は必ず閉めるなどプライバシーに配慮している。浴室が改装され利用者に喜ばれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、掃除、植物のお世話、手すり拭き、買い物など職員と共に行っている。書道、絵画、折り紙など趣味を生かした支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や買い物、季節に応じたのピクニック、食事会、音楽会、合同運動会などに出かける支援をしている。自治会の催しや掃除にも参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠はしていないが、建物の構造上、入浴時や食事時などは施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	19年12月に避難訓練が実施されており、詳細に記録され、評価検討されている。今年度は近々予定されている。避難先の確認ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事量や水分量が毎食記録されており、不足時にはゼリーを補うなどしている。毎食汁物を付け水分摂取に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に面した和室の居間には椅子やソファーが置かれ居心地良く過せるようにしている。民家をそのまま利用しているので、食堂は少し狭いが、浴室は改装され明るい。トイレの木製扉は懐かしさを誘う。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの家具や装飾品が持ち込まれ、その人らしい部屋作りがされている。置かれているポータブルトイレや仏像に違和感が無い。		